

飯田市の大学連携

考え方とこれまでの取組

飯田を拠点に（大学との連携）

◆南信州・飯田フィールドスタディ

H23年度10月末現在

★APU立命館77太平洋大学	13人
法政大学	63人（院生を含む）
東京大学	28人（院生を含む）
筑波大学	29人（院生を含む）
明治大学	19人
高崎経済大学	20人
東京農工大学	87人（院生を含む）
豊橋技術科学大学	25人（院生を含む）
名城大学	7人
関西大学	1人（院生を含む）
関西学院大学	47人
愛知大学	5人
神戸大学	49人
中央大学	15人
桜美林大学	1人
都留文科大学	1人

◆特殊講義（2単位）

東京大学	12人
------	-----

◆インターンシップ

桜美林大学	1人
都留文科大学	1人

計 422人

（☆飯田市と友好交流協定等を締結）

南信州・飯田フィールドスタディ

○「ニッポンの日本(日本のアイデンティティ)」を考えるきっかけ。そして、日本の将来を担ってほしい。

○国の制度等は、地方で機能しているか否か。地方圏のモデル的・自立的な取組から、都市圏と地方圏の関係(国のありよう・国のカタチ)へと視野を広げてほしい。

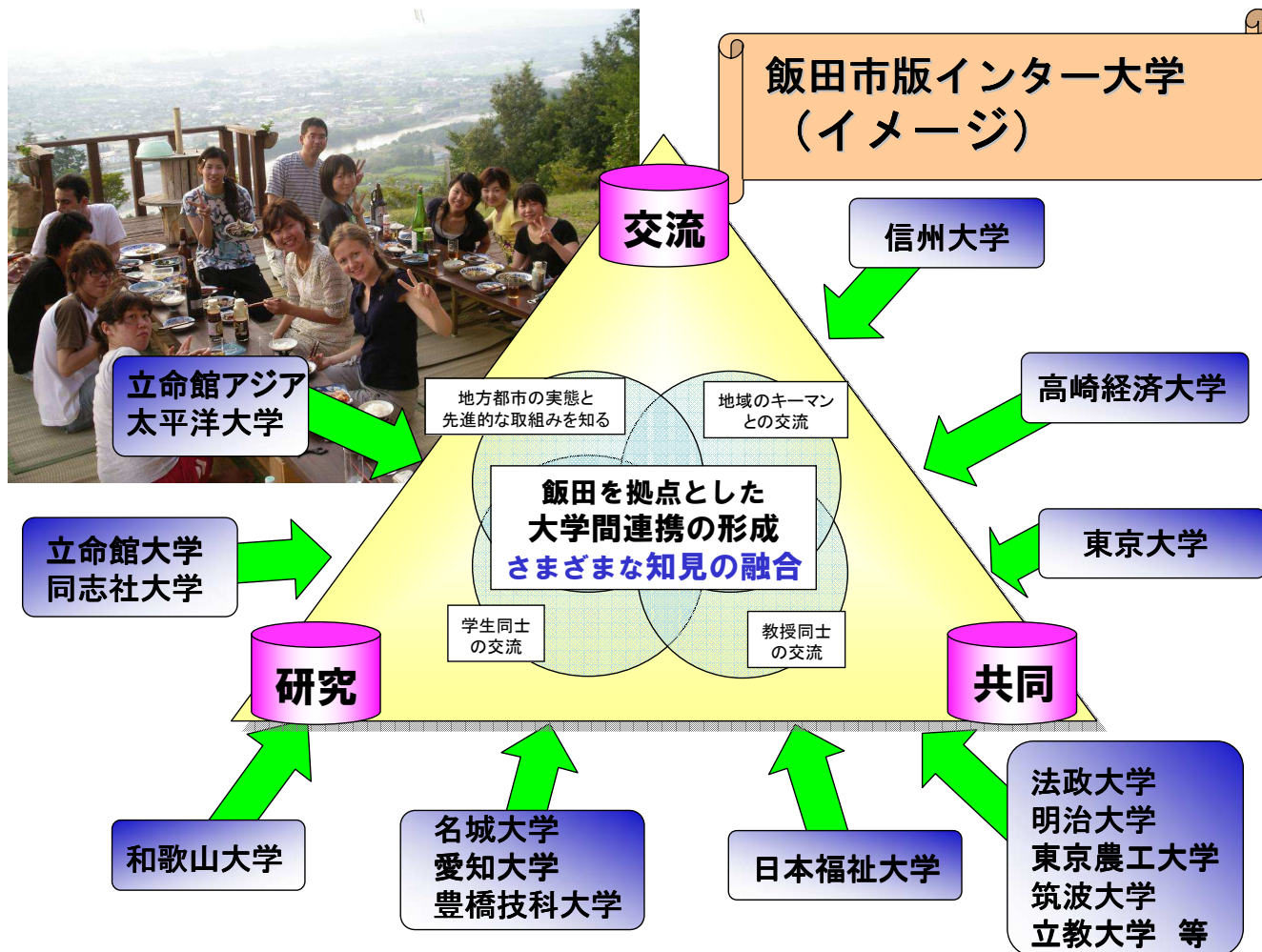
○4年生大学を有しない飯田。多くの若い人たち、専門家・研究者から意見・提言をいただき、地域経営に生かしていきたい。



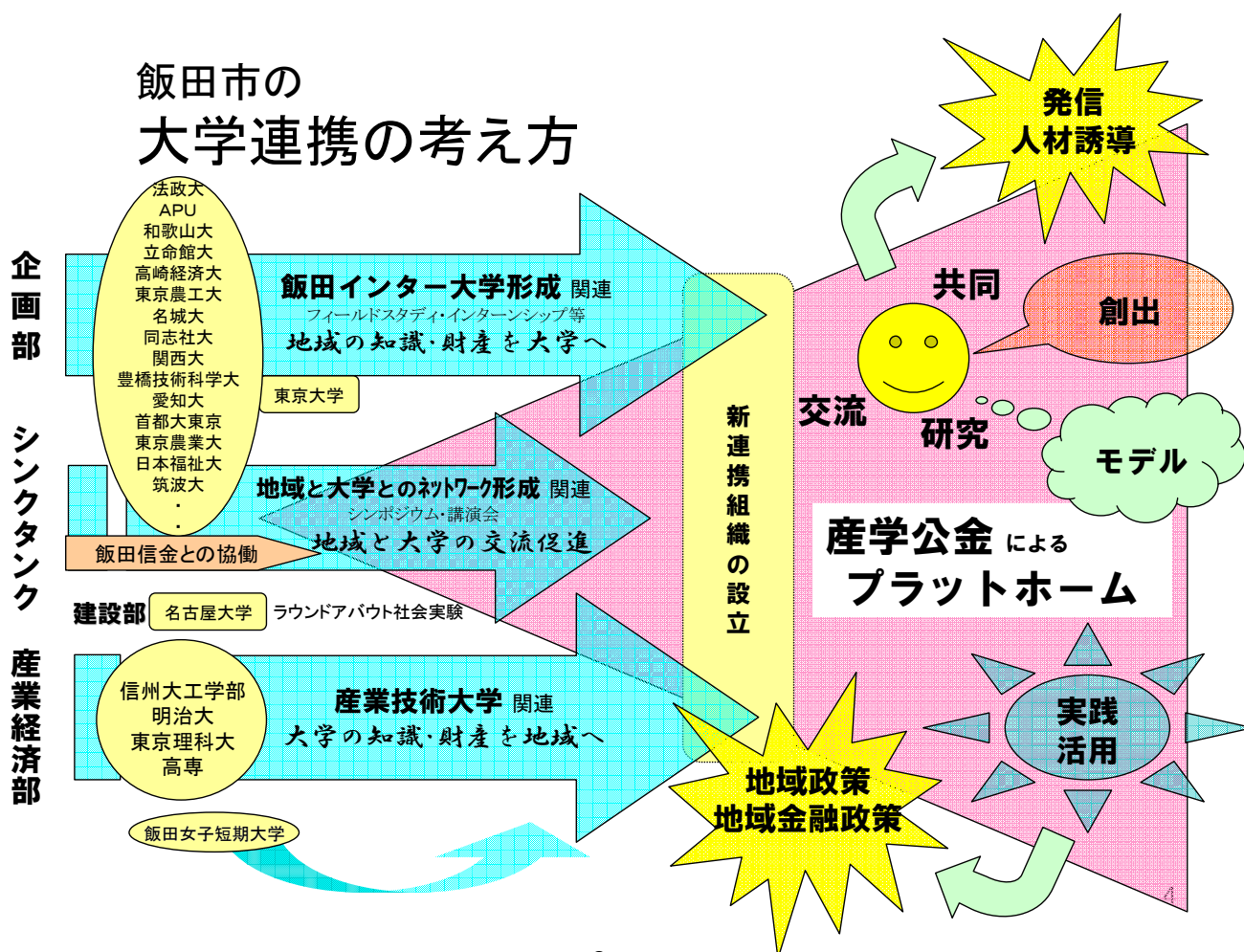
中学生と意見交換
Q 飯田のこと 好き？
Q 将来も飯田で暮らしたい？
Q どうやったら東大に入れるの？



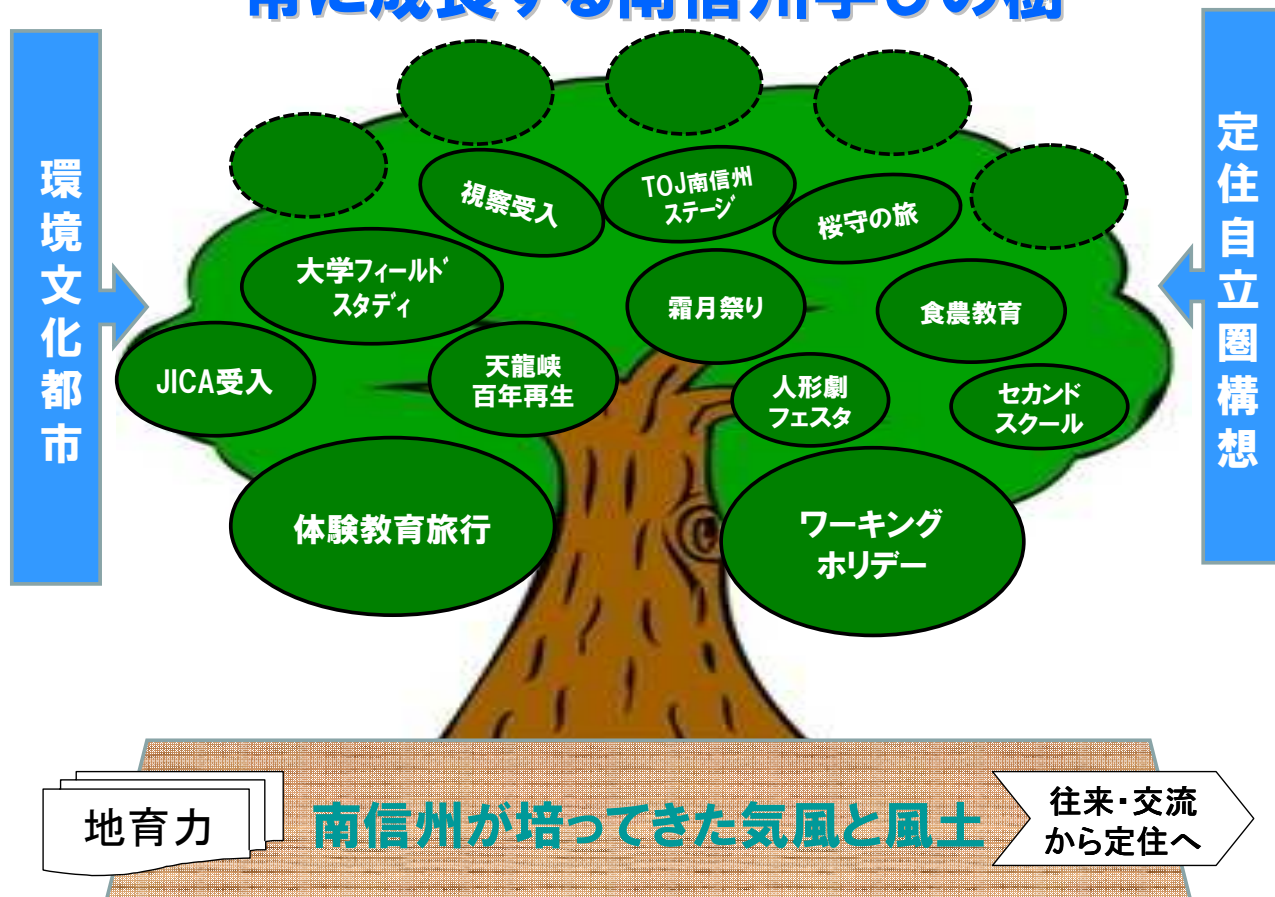
飯田市のフィールドスタディにおける複数大学の共同講義



飯田市の 大学連携の考え方



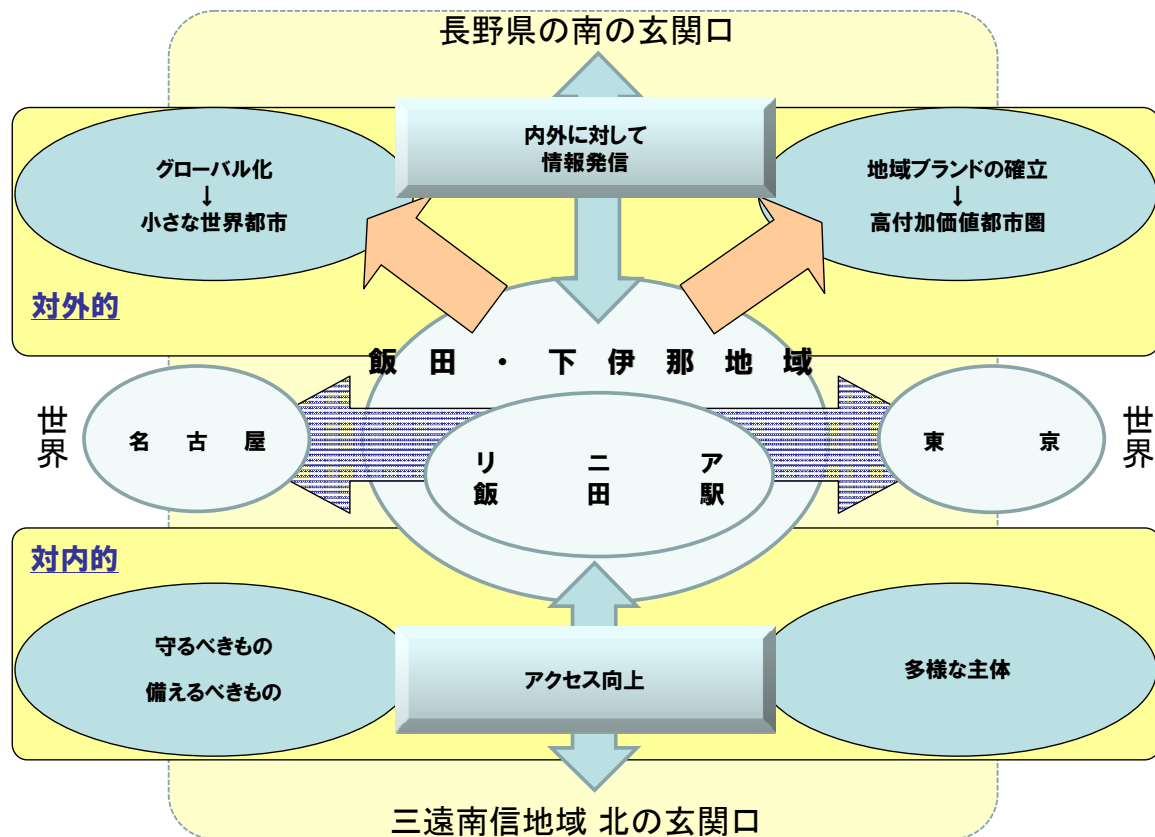
常に成長する南信州学びの樹



飯田市の大学連携

今後の方向性

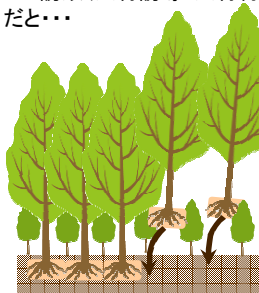
リニア中央新幹線飯田駅を見据えたまちづくりの方向性



「知のネットワーク」による21世紀型戦略的地域づくり

～20世紀型の考え方～

別の場所で育てられた木を移植し、短期間で整然とした美しい街を形成することができるが、単なるハコモノ誘致(人材誘導・人材育成など手入れが不十分)だと...

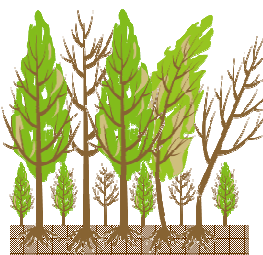


- 根を張るための土壌づくりが不十分な場合がある。
- 木が育つための栄養や水分を与えられない。

少子高齢化社会
経済のグローバル化etc

社会経済構造の
急激な環境変化

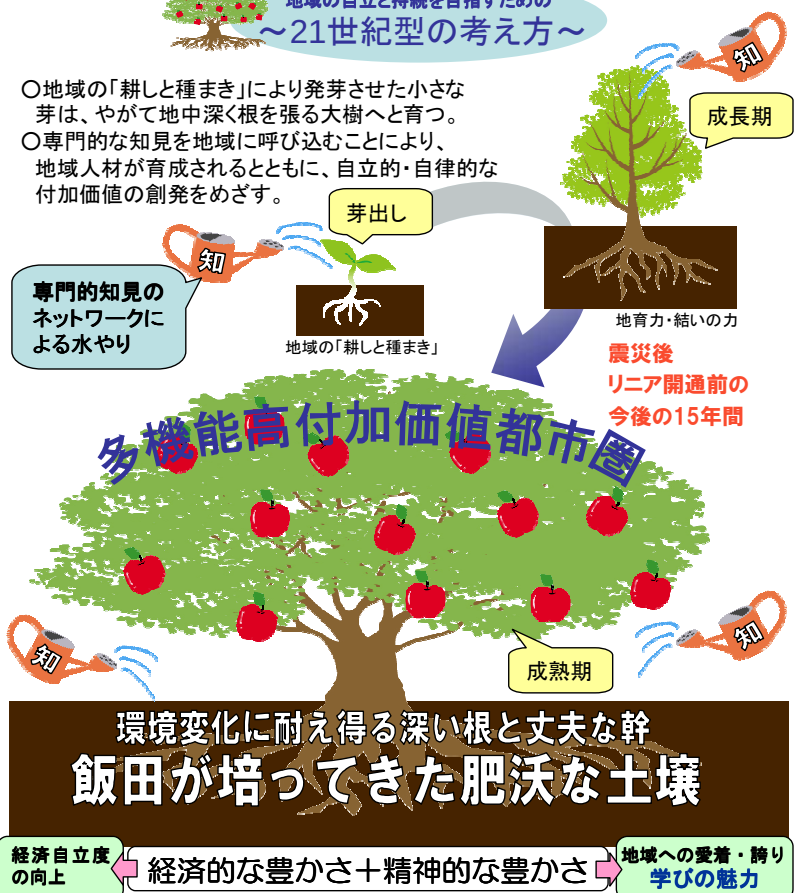
- 根を深く張れない。
- 徐々に立ち枯れていく。
- 少しの環境変化で枝や幹が折れてしまう。



街が荒廃して持続できない。

～21世紀型の考え方～

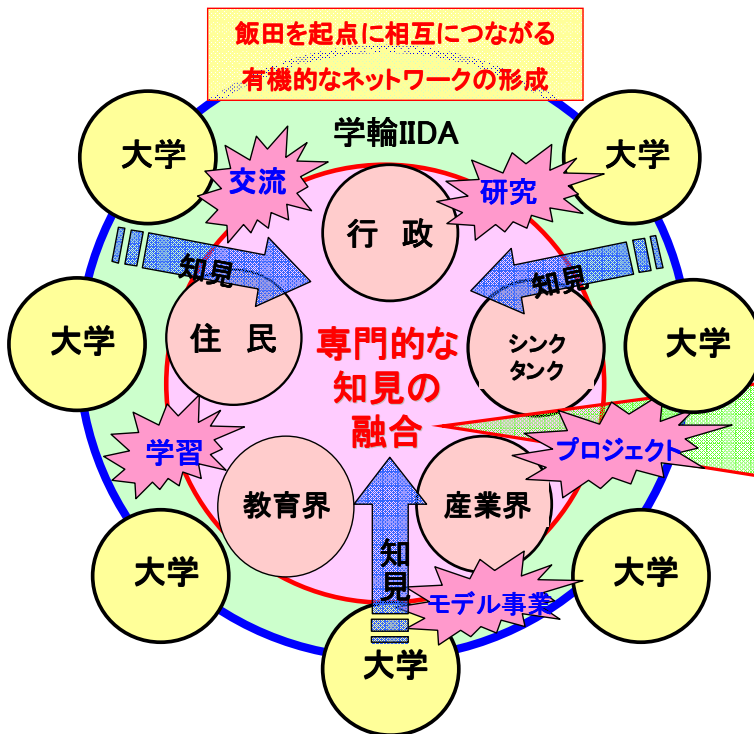
- 地域の「耕しと種まき」により発芽させた小さな芽は、やがて地中深く根を張る大樹へと育つ。
- 専門的な知見を地域に呼び込むことにより、地域人材が育成されるとともに、自立的・自律的な付加価値の創発をめざす。



大学連携会議 ～学輪IIDA～

○平成23年1月、飯田と関係を深めてきた大学・研究者等で設立。現在20大学約60名の研究者等が参画。
○コンセプトは、**21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくり**。
○学輪IIDAの取組を通じて、研究者同士が相互に知り合い親交を深めつつモデル的な研究や取組を地域とともに進めていく。

学術研究都市
21世紀型の大学機能を追求



リニア将来ビジョン

小さな世界都市

高付加価値都市圏

守るべきもの
備えるべきもの

多様な主体

～学輪IIDAの取組～

☆学輪IIDA全体会

☆プロジェクト活動

- 飯田工業高校後利用
- 共通カリキュラム構築(2単位)
- 論文等の格付け・発信
- 国際化の取組
- 産業創出

9

大学連携の
取組事例

～和歌山大学との共同プロジェクト～

飯田市美術博物館のデジタルプラネタリウムの新たな試み



5～10分の作品として上映

デジタルプラネタリウム

- 平成23年3月に導入
(約8,000万円)
- 和歌山大学との共同
プロジェクトによる活
用研究

地域の特徴的な資源

- 文化・教育的活用
のみならず、飯田市
美術博物館の観光的
活用への試み

大学連携の
取組事例

～立命館大学による調査研究及び発信～ 東日本大震災被災者に対する支援策の提言

南信州における 東日本大震災の被災者への対応 —地域分散型震災支援システムの提言—



立命館大学報告書

立命館大学政策科学研究科

立命館大学が、東日本大震災被災者を受け入れた飯田市及び南信州広域連合の取組について調査。きめ細やかな対応ができる「地域分散型の支援システム」の有効性について提言書をまとめ、国をはじめ関係機関等に対し提言。



大学連携の
取組事例

～東京大学との共同プロジェクト～ 人生リバイバル・プログラムの実施

中高年者のための 人生リバイバル・プログラム



ご挨拶

社会が大きく変動する中で、人々の働き方も激変しています。また、社会情勢が不安定な中で、先行き不透明な未来が、人々に重くのしかかっています。わたしたちは知らず知らずのうちに、食料の大きな生活を送り、自分の人生に対して柔軟な考え方を持つことができなくなっています。それがまた、わたしたちの人生を生きづらいものとして見えます。

このたび、わたしたち東京大学と飯田市とともに手を携えながら、人生に悩んでいる人々、とくに人生の転機に立つ中高年の方々に応えるプログラムを実施することになりました。この社会を少しでも「人が生きるに値する社会」へと近づけることができればと考えております。多くの方々のご参加をお待ちしております。

セミナー概要

- (1) 2011年11月18、19日 : 東京セミナー
- (2) 2011年11月25、26、27日 : 飯田セミナー
- (3) 2011年12月3日 : まとめ上げセミナー

募集要項

対象者 : 人生の転機点に立っている中高年者
募集人数 : 20名
経費 : 30,000円(1名)
※応募者多数の場合は、選考の上、結果をお知らせします。

お申し込み方法

募集期間: 10月24日(月)～11月6日(日)
ウェブ上の申し込みフォームより、お申し込みください。
<http://p.tl/pF3r>
(東京大学大学院臨床心理学コース下山研究室のホームページからもアクセス出来ます。)
※郵送での受付をご希望の方(11月4日必着)
別紙のお申し込み用紙をご利用ください。
受講通知: 11月11日までに受講票を送付します。

飯田市が実施している体験教育(修学)旅行や大学フィールドスタディなどの実績・ノウハウに、東京大学が持つ臨床心理学等の専門性を組み合わせた、人生リバイバル・プログラムの実施。



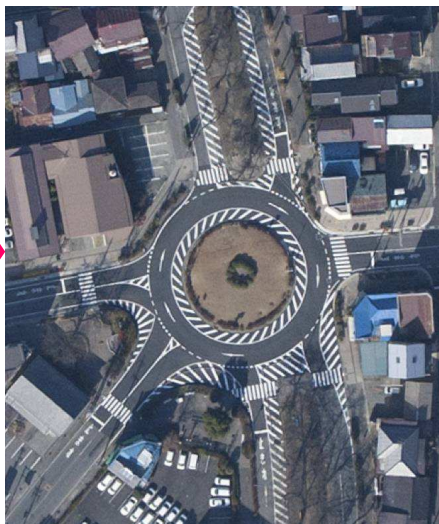
大学連携の
取組事例

～名古屋大学(国際交通安全学会)との共同事業～ ラウンドアバウトの社会実験

ラウンドアバウトは国内ではごく稀にしかなく、実道における実証実験が不足している。飯田市は、市内吾妻町ロータリーをフィールドに、名古屋大学(国際交通安全学会)や地域住民と共同で、歩行者等の安全対策についての社会実験を実施。



実験前



実験後

ラウンドアバウトの特徴

- ・交差点を直進的に通過できないため、速度が低下し事故を軽減
- ・交差点内は1通のため、安全確認は基本的に右側のみ
- ・一定の交通量までは信号交差点よりも待ち時間が短い
- ・信号機が不要なため、環境に優しく、信号停電時にも機能する

大学連携の
取組事例

～学輪IIDA 全体会・プロジェクト活動～ 複数大学の共同による検討・研究活動

○平成23年1月、飯田と関係を深めてきた大学・研究者等で設立。現在20大学約60名の研究者等が参画。
○コンセプトは、**21世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくり。**

○具体的な取組

※学輪IIDA全体会

※プロジェクト活動

- 飯田工業高校後利用
- 共通カリキュラム構築
- 論文等の格付け・発信
- 国際化の取組
- 産業創出



飯田工業高校後利用PJの視察研修



学輪IIDA全体会の様子

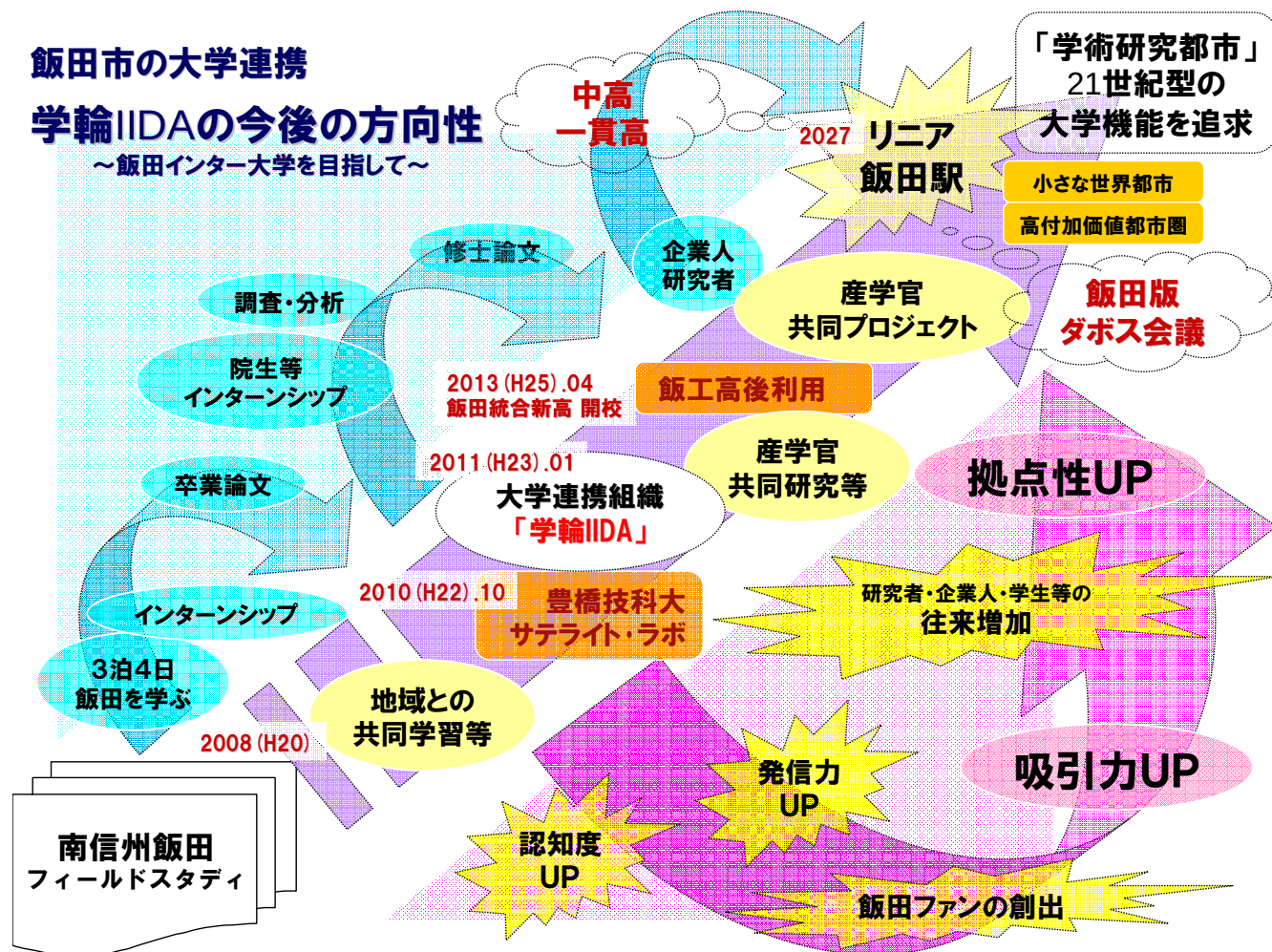


共通カリキュラム構築等に向けたPJ会議

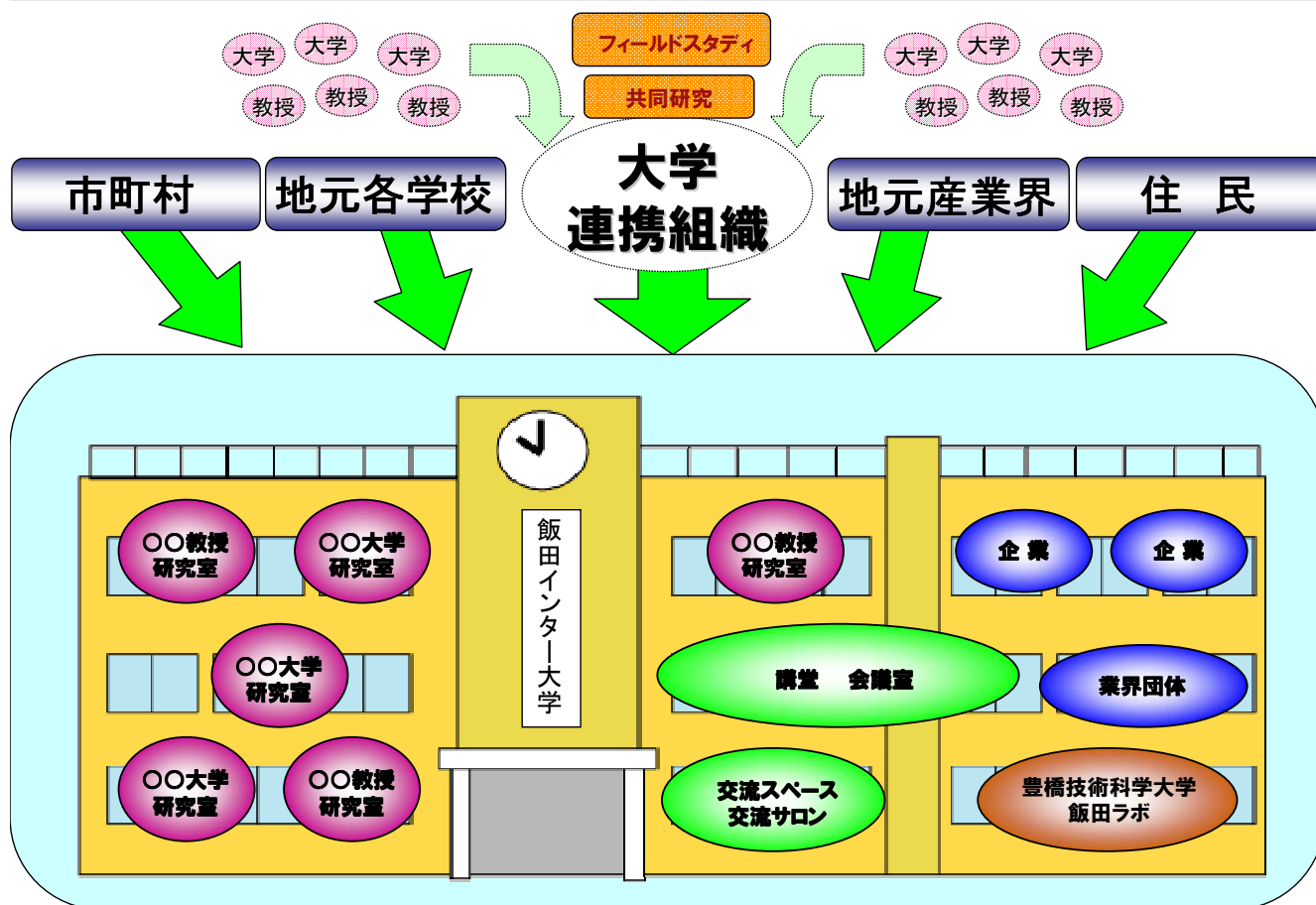
飯田市の大学連携

学輪IIDAの今後の方向性

～飯田インター大学を目指して～



飯田インター大学(イメージ)



長野県飯田工業高等学校(現況)

2013 (H25) .04
飯田統合新校化につき、
飯田長姫高校 校地に移転統合。
後利用を検討している。



2010 (H22) .10
豊橋技術科学大学
飯田サテライトラボ 開設

写真提供：長野県教育委員会

